

シドニーの公共交通政策

(一財) 自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 芝 紀之

2014年4月にシドニーでの生活が始まり、約1年が経過した。職場までは毎日片道約20分を電車に乗って通勤している。シドニーの電車の特徴は何と言っても2階建車両で、初めのうちは2階から見える風景が珍しかったが、数ヶ月もすれば景色も見慣れてくる。すると今度は風景以外に日本との違いが見えてきだす。ここでは、これまでの私の生活体験を通して、ニューサウスウェールズ州（以下、NSW州）の公共交通サービス、特にシドニー市近郊の政策を紹介したい。

公共交通の割引、休日に出かけやすく

シドニーでは、休日の公共交通機関が利用しやすい。最近定着してきた「オパールカード（OPAL Card）」は週末の公共交通機関を利用しやすくしている。日本のスイカやイコカのようなIC乗車券で使い方もほぼ同じだが、週8回以上、オパールカードを利用すれば残りの期間は無料で公共交通機関を利用できる。例えば、月曜から木曜の朝夕を電車で通勤した場合、金曜から日曜は無料になる。もし週に8回利用しなくても、日曜は支払運賃の上限額が合計\$2.5（初乗り1回分程度）に設定されており、これ以上かからない。

週末に人を出かけやすい運賃設定には公共交通機関の利用者を増やすだけでなく、外出先での買い物や飲食による消費を促す効果もあるだろう。家で一日中過ごした場合、このような消費は生まれない。そういう意味でもこのような運賃設定は公共交通機関を活用した地域経済への貢献と見ることもできるのではないだろうか。



時間帯別の料金設定と交通渋滞対策

観光名所の一つハーバーブリッジでは交通渋滞対策を見られる。シドニー中心部と対岸のシドニー北部をつなぐこの橋を渡る場合、北側から中心部へ向かうときのみ料金が課せられる。市内中心部に向かう車の量を減らし、交通渋滞を抑制しようとしているほか、公共交通機関の利用も促している。さらに、時間によって変動する料金体系になっており、平日の場合、6:30～9:30は\$4、9:30～16:00は\$3、16:00～19:00は\$4、19:00～6:30は\$2.5と通勤等が多い時間帯を割高に設定している。これには、通勤時間帯等の分散を促すことで交通渋滞を減らす狙いがあるといえる。

また、平日 7:00~9:00 または 16:00~18:30 にオパールカードを使って電車を利用した場合、最低\$3.38 必要だが、それ以外の時間は\$2.36 と割安運賃を設定しており、公共交通機関利用者にも、料金設定を通じて通勤等の分散を促している。

バス専用レーン、厳格運用で快適に

このほか、特に朝バスに乗ると渋滞している車を横に見ながら通勤することができる。バス専用レーンが設けられているためであるが、日本のバスレーンと比べてかなり快適にバスは進む。高額な反則金やカメラによる監視が行われていたりすることも影響しているかもしれないが、交通ルールがしっかりと守られており、バス利用者にとってとてもありがたい。全ての道路にバスレーンがあるわけではないので、完璧に定刻どおりとはいかないが、車の渋滞に巻き込まれて進まないバスにイライラすることは少ない。



バスレーンを快適に走るバス

大規模イベントとの連携

シドニーで最も驚いたことは、シドニーマラソンのときはゼッケンを、サッカーアジアカップのときは観戦チケットを駅員に見せるだけで、会場までの往復に公共交通機関を利用できたことである。大規模イベントの場合、参加費用や観戦チケットに往復の公共交通機関利用代が含まれていることが多く、切符を買うためにわざわざ並ぶというようなことはしなくても済み、公共交通機関を便利に利用できる。

また、駅構内やバス車内でもイベントの PR が積極的に行われており、乗客たちは嫌でもイベント情報を見てしまう。日本ではイベントによる交通規制のお知らせ等はよく見たが、公共交通機関で大々的にイベント自体を PR していることはあまり見た覚えがない。

サッカーアジアカップの際はオーストラリアが優勝したことも影響したであろうが、主催者側が当初目標としていた 50 万人をはるかに超える約 65 万人の観客動員数を記録した。ラグビーなどと比べ、サッカー人気は決して高いと言えないこの国で、このように人をひきつけたのは公共交通機関での PR 効果もあったといえるだろう。



サッカーアジアカップチケット

「Ticket includes return public transport」と印字されている。



クリケットワールドカップをPRするセントラル駅構内

シドニーで生活してみて

私は車を所有しているが、これまで通勤に一度も使ったことはなく、使いたいと思ったこともない。どんなに夜が遅くなってもできるだけ電車を利用して、休日に公共交通機関を無料で乗ろうとしている。たまにはバスにも乗ってみて優越感に浸りながら通勤している。また、街の雰囲気や近く何か大きなイベントがあることに気づかされ、外国人の私ですら何かワクワクさせられてしまう。

電車やバス等の運営主体など公共交通機関を取り巻く環境は日本と違う部分は多くあり、車を使う方が便利なことも時々あるが、多少強引なところがあったとしても、今回ご紹介したような大胆な取組は魅力あるまちづくりを進める際に参考にできる部分もあるのではないだろうか。